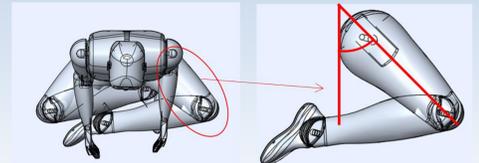
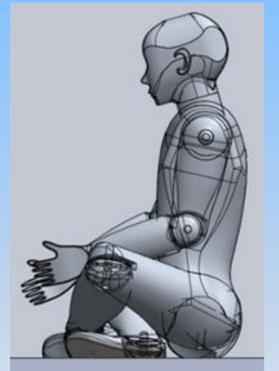
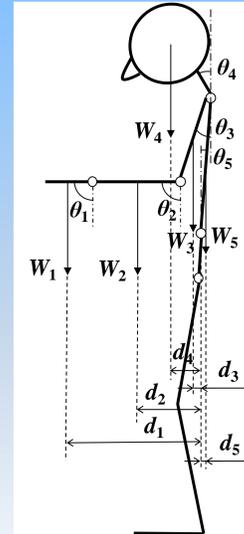




変電所作業の負担軽減に関する技術開発

人間工学による アシスト器具を 開発しました。

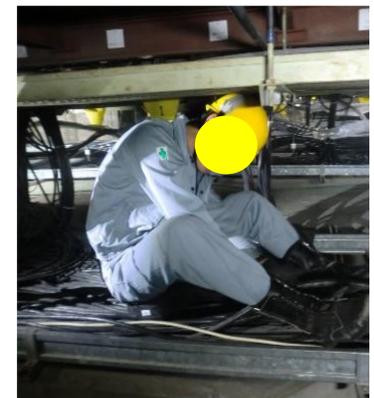


ガスボンベ運搬作業

あぐら座り作業

背景・目的

- 変電所は、「上部に充電部がある」、「足元が砕石敷である」、「狭隘箇所が多い」等、作業環境があまりよくありません
- 中でも、重さ80kgにも達するガスボンベの運搬作業では、腰痛発症のおそれがあります
- また、地下室等での制御ケーブル取扱い作業に代表される「あぐら座り作業」では、股関節に大きな負担がかかっています



ガスボンベ運搬作業

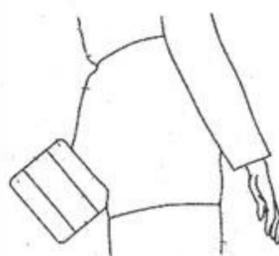
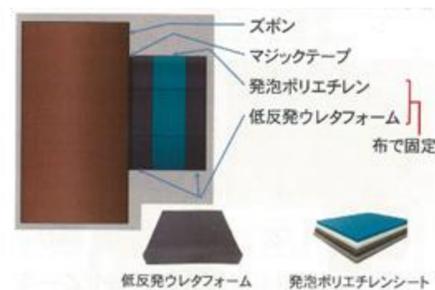
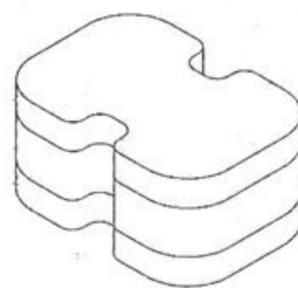
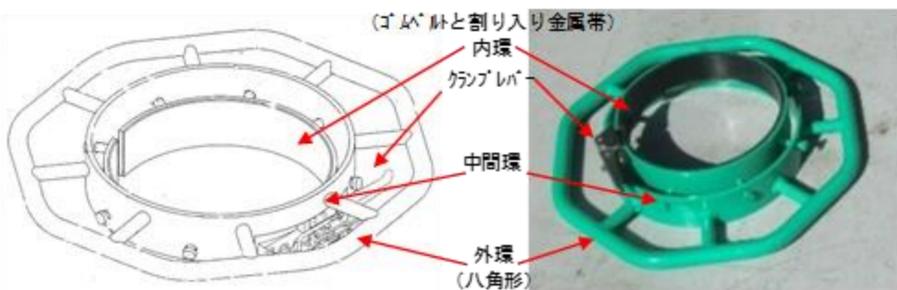
あぐら座り作業

特長

- 人間工学の観点より、作業負担軽減を達成する各種アシスト器具を開発
- ガスボンベ運搬作業: 「八角形把手と底部ゴム」により、椎間板圧迫力が3,130Nから1,565Nまで低下し、腰痛の危険性が低くなります
- あぐら座り作業: 「お尻密着クッション」により、股関節の可動域が50度から45度未満になり、無理なく作業ができます

用途

- 変電所作業のうち、多くの人が負担を感じている作業の負担軽減を実現することができます
- 現場作業で活用し、労働災害防止に役立つだけでなく、作業時間の短縮にもつながります
- 本研究は、三重大学(三重県津市)との共同研究です



ガスボンベ運搬作業

あぐら座り作業

開発者の
ひとこと

今回の展示では、開発したアシスト器具をご用意してあります。ぜひ手に取ってご覧ください。また、実演場にてガスボンベ運搬およびあぐら座りに関する作業負担軽減を実際に体験することができます。「人間工学」と言うと、難しいイメージがありますが、身近なところで役に立つことが多いです。過去に公表した論文を多数ご用意しておりますので、ご興味のある方はぜひ説明員からの説明をお楽しみください。